

砂防計画は一種の予測作業で、予測の精度をあげ、計画に説得力を持たせるためには、砂防事業にかかわる現象の科学的、技術的内容の進歩がなければならない。計画そのものは自然科学でも応用科学でもないけれども、科学的に内容が充実しなければより防災的な砂防計画への接近は期待できない。したがって砂防計画の作成、変更は最終的には行政的立場から判断されるものであっても、その過程で研究成果、調査成果をこれに反映させるてだてが考えられねばならず、そこで行政的立場と研究的立場との接触が必要となる。

## (20) 谷の分岐過程についての一考察

京都大学農学部 武居有恒

現在の地形は、侵食営力ならびに推抗力の関係を総合的に表現しているものとするならば、適当な数量化表現によって、山地荒廃に対する多くの情報を得ることができる。

ここでは、谷の一単位長さ、特に第1オーダーの谷の長さ、第二オーダー以上の谷の分岐点間の距離について考察した。これらは、流域内の水系分布を規定する。基本的かつ独立の要素であると同時に、水系発達過程において2つの異質な営力によって規定される量と考えることができる。すなわち、前者は侵食的な侵食過程の影響大きく受け、後者はマスマーブメント的な過程に支配されるものと仮定すると、両者の量にあらわれる差は、流域における土砂生産形態の特徴を示すものと解釈される。

本報告では、同一地質からなり、相接近して位置しているにもかかわらず、地形的に顕著な差の認められる流域の例として、草津川上流栗田地区および大戸川流域田上地区の両者について比較考察した結果について述べる。

## (21) 梓川扇状地の家屋形態について

— 砂防的人文地理の観点から —

建設省土木研究所 田畑茂清  
" 阿部宗平

扇状地での土砂はんらんは、その扇状地内の微地形に左右される。このことは、扇状地に存在する家屋の形態に大きな影響をおよぼしている。

---

以上のことがらについて、長野県梓川扇状地を例にとって、以下の順序で検討した。

- 1) 河川工学的及び地形学的側面から考察を加え、扇状地内の土砂はんらん危険地帯を推測した。
- 2) 土砂はんらん危険地帯に存在する集落とそれ以外の地域の集落の家屋の構造の比較をおこなった。

その結果「土砂はんらん危険地帯内の集落・家屋は、土砂はんらんに対応するような構造をもっている」ということがわかった。